

教員目指す学生が被災地で学ぶ

2019年8月22日(木) 9:46 NHK東北 NEWS WEB



県内で教員を目指す学生たちが東日本大震災による津波の被害を受けた小学校を訪れ、災害が起きた際、子どもたちを守るための避難行動のあり方などを学びました。



被災地を訪れたのは宮城教育大学のゼミ生10人です。学生たちは、21日、震災の津波で校舎が被災した南三陸町の名足小学校と石巻市の門脇小学校を訪れました。



このうち名足小学校では当時の校長が地震の後、学校のマニュアル通り児童100人近くを校舎裏の駐車場に避難させたものの、地域の人々の助言を受けながらより安全な高台にある畑、そして保育園などへと繰り返し避難場所を変え、児童全員の命を守ったことを説明しました。



これを受けて、学生たちは子どもを守るための避難行動について話し合い、長谷部彩佳さんは「想定外の大きな災害が起きた時にはマニュアルにないところまで避難させることもしなければならないと思った」と話していました。



また、三浦美咲さんは「先生たちは地域の人々の助言を聞きながら避難していたことを知った。地域と一緒に子どもたちの命を守っていくことが大事だと思った」と話していました。